

供養塔建てめい福祈る

県仏教会青年部の34人

日航機事故の現場で



県仏教会青年部(谷晃昭代表)の三十四人は二十二日、多野郡上野村の日航ジャンボ機墜落事故現場へ登り、供養塔を建て、経をあげて五百二十人のめい福を祈った。

墜落現場に供養塔を建て五百二十人の霊を弔う県仏教会青年部

県仏教会は、事故発生の日から、遺体安置所となった藤岡高校に自主的に向き、読経やお清めをした。藤岡での仕事が多く「現地に行つて供養を」が念願だった。そこで青年部に、県仏教界を代表して行ってもらふことになり、現地入りとなった。

朝六時、身元不明の遺骨が安置されている光徳寺に集合、同四十分に出発した。竹市文成県仏教会長も登山道入り口まで同行、慰霊碑に読経

した。長さ二メートル、十五センチの供養塔を二人でかつぎ、二時間かけて頂上へ。そこで法衣に着替えた僧りよたちは、壁に囲まれた仮設祭壇の北側に供養塔を建て、線香をたいて献花し、経をあげた。メンバーの一人、藤岡市芦田町の竹市文光さん(四〇)は「木は切られ、山肌にはチリひとつなくきれいなもの。土のうを積んだヘリポートが当時の面影を残すだけ。この斜面に激突したんじゃないからん」と思いました。ひたすら、五百二十人の魂よ安らかに眠りたまえと経をとねえました」と話していた。

供養塔建てめい福祈る
県仏教会青年部の34人
日航機事故の現場で